

「高知と言うたらカツオ！」
 ……だったのが
 高知の美味しいカツオを
 自慢できなくなる日が
 やってくるかもしれません

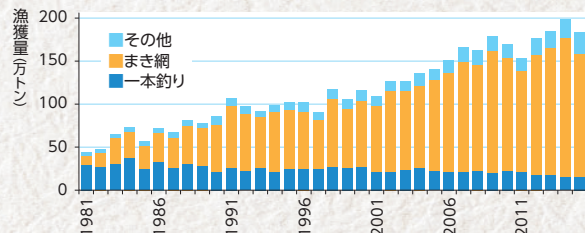


中西部太平洋でまき網によるカツオの漁獲量が大きく増加

現状①

9万トン(1981年) → 69万トン(1999年)
 → 142万トン(2015年)

※まき網の漁船数: 169隻(1999年) → 281隻(2015年)



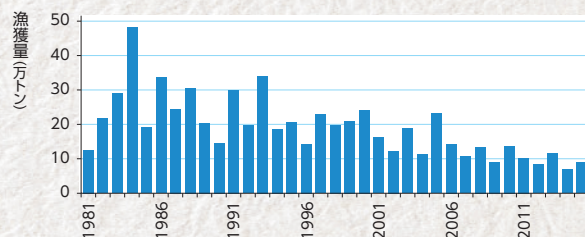
中西部太平洋におけるカツオの漁獲量の推移(漁法別)

資料: 中西部太平洋まぐろ類委員会(WCPFC)



高知県の近海カツオ一本釣り漁業の漁獲量が大きく減少

現状②



高知県の近海一本釣りによるカツオの漁獲量

資料: 高知県水産試験場

多くの方々からのご支援・ご協力が必要です。

募 金

ご協力のお 願 い

一緒に！
 カツオを守ろう。
 高知の自然と食文化を守ろう。

本会は、おもに委員の会費により、シンポジウムをはじめとする様々な事業を展開しています。しかしながら、今後の活動をさらに充実させるためには資金が十分とはいえません。別項に掲載しております本会の事業内容をご理解いただき、あたたかいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

- 申込単位 一口 1,000円(何口でも可)
- 払込期日 随時
- 払込方法 銀行振込

* 下記のいずれかの口座にお振込ください。

* 誠に勝手ながら振込手数料は、
 ご自身にてご負担いただけますようお願いいたします。

● 四国銀行 本店営業部

口座種別 普通
 口座番号 5181260
 口座名義 高知カツオ県民会議幹事会
 事務局 岡内啓明

● 高知銀行 本町支店

口座種別 普通
 口座番号 3036261
 口座名義 高知カツオ県民会議幹事会
 事務局 岡内啓明

高知カツオ県民会議ホームページ

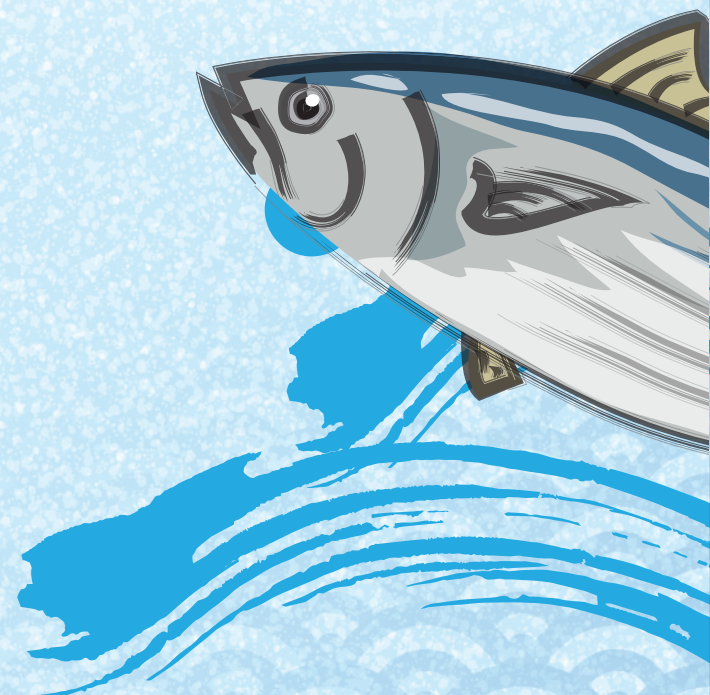
高知カツオ県民会議

検索

www.kochi-katsuo.com



カツオを愛する皆様へ



高知カツオ県民会議



情報発信分科会

目的

- 1 高知県民がこよなく愛し、和食文化にも大切な出汁のもとになるカツオが、資源として危機的な状況になっていること、及びカツオ資源の保全には、国際的な漁業管理の枠組みが欠かせないということを高知県民、さらには全国に発信する。
- 2 中西部マグロ類委員会(WCPFC)の枠組みを再構築し、持続可能なカツオ資源と日本近海への安定したカツオの来遊をはかる。

活動

- カツオ資源の現状、課題などを不断に情報発信するホームページ(HP)の開設・運営。
- カツオに関するアーカイブ機能をHPに設置し、関心を持つ人たちの情報検索を容易にする。



資源調査・保全分科会

目的

- 1 カツオ資源の持続可能性を科学的にかつ全球的に調査する事業の側面支援を目的に、調査研究の加速化を目指した資金援助(たとえばクラウドファンディングによるカツオアーカイバルタグ標識調査の支援など)を行うとともに、IoT技術などの先進テクノロジーの社会実装を可及的速やかに進めるための態勢を整備する。
- 2 カツオ資源の保全に関する提言とその実現に向けた活動指針を策定する。

活動

- カツオ資源調査を加速することに貢献する。
(クラウドファンディングの立ち上げ)
- 西部太平洋および中部太平洋におけるマグロ等の高度回遊性魚類の漁業資源を保存・管理するための国際委員会WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)を傍聴し、我が国の水産外交の姿勢を確認する。
- WCPFCにおけるロビー活動として、高知カツオ県民会議の取り組みを積極的にアピールする。

高知県の県魚であり、地域を代表する食素材であるカツオを、地域の誇りとして将来にわたり維持していけるよう、高知に、そして日本にカツオを取り戻す目的で「高知カツオ県民会議」を立ち上げました。

●「高知カツオ県民会議」設立趣旨

カツオは古来、花鳥風月を愛する日本人の食と文化に大きな影響を与えてきました。特に高知にとってカツオは、伝統的な一本釣り漁法やたたきで代表される独自の食文化を支える「県魚」として、県民の誇りとする観光資源として、さらに水産業の主役として愛され続けてきました。ところが、漁業者から、「カツオがこれまでのように獲れなくなってきている」という直感的な不安が訴えられ始め、実際に高知の一本釣り漁業の漁獲量が近年、顕著に減少してきています。私たちにとって、これまで身近な食材であったカツオ資源の実態はどうなっているのか、カツオに関わる漁撈、加工、流通、消費、文化がどのような現状にあるのか、また、カツオの付加価値を高める利用方法にはどのような可能性があるのかなど、詳細、かつ速やかな調査・解明が求められています。カツオ資源の実態を把握するためには、海洋資源調査機関のデータのみならず、日々海の上でカツオを追っている漁業者の目による観察情報も、貴重な指標として認識する必要があります。そして漁獲圧力の高まりによって、カツオ資源の保全が深刻な危機に瀕しているとするれば、資源保護の裏付けとなる全地球的な海洋資源調査を加速しなければなりません。その際に国の調査結果を待つだけでなく、調査に必要とされる予算の獲得や技術開発も含めて、地域の諸団体や個人が積極的に当事者として参画することも大切であり、カツオに関わる地域産業や県民の結集が鶴首されています。

そこで、将来にわたり、高知県にとって大切なカツオを絶やさないために、カツオに関わる様々な諸団体や個人、及びカツオを地域の誇りとする人々が集い、各種の意見交換に基づき、「カツオに関する情報の発信」、「カツオ漁業及びカツオ資源の消費のあり方」、「カツオ資源の調査」、「カツオの食文化」について企画・行動する場として、「高知カツオ県民会議」を設立したいと思います。カツオを愛するあらゆる人々が相互に交流・連携して、協働の図れる場として、この県民会議を位置づけ、カツオに関する「様々な取り組み」に着手することで、高知に、そして日本に一刻も早くカツオを取り戻したいと考えております。「初夏に初ガツオ、秋には戻りガツオ」、高知の豊かな自然と食文化を守るために、今こそ、高知県民みんなでつむぎ合しましょう。

●活動内容

上記目的を達成するための活動として、主に「情報の発信について」「カツオ漁業及びカツオ資源の消費のあり方について」、「カツオ資源の調査・保全について」、さらに「カツオの食文化について」「県民会議」の下に設置する「カツオ情報発信分科会」「カツオ消費・漁業分科会」「カツオ資源調査・保全分科会」「カツオ食文化分科会」で議論・企画し、それぞれの活動を推進していきます。



消費・漁業分科会

目的

- 1 高知県におけるマリンエコラベルやMSC(※)の普及啓発を進める上で、消費者に美味しいカツオを提供できる流通過程の指針を確立する。
※MSC:持続可能な天然魚漁業に対する世界有数の認証プログラムを提供するための組織
- 2 カツオの漁法や歴史を高知県民や観光客に発信し、持続可能なカツオ一本釣り漁業の理解・促進をはかる。

活動

- 月に1回程度の勉強会とディスカッションの開催。
- 小学校などの勉強会とディスカッションの開催。
- 小売店でカツオに関する情報発信、価値に対する理解・促進のサポート活動。



食文化分科会

目的

- 1 和食の根幹を成す出汁に欠かすことのできない、カツオ節をはじめとするカツオの食文化に関する情報収集と県民への啓発活動。

活動

- カツオうんちく小冊子の発行。
- 「土佐カツオマイスター制度(※)」の研究・立ち上げと、推進。
※カツオマイスター制度:鹿児島県枕崎市で始められたカツオに関して高いレベルの知識を有する方を認定する制度。

高知カツオ県民会議